

中間評価（表紙）

長野市歴史的風致維持向上計画（平成25年4月11日認定）
中間評価（令和元年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保全と活用	3
II 伝統技術の継承	4
III 歴史的まちなみと周辺環境の保全	5
IV 伝統的な祭礼等の継承	6
V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信	7
VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究	8
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 長野県内の歴史的まちづくりネットワークの構築	9
ii 松代地区における登録文化財の増加	10
iii 戸隠竹細工の文化継承	11
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 善光寺周辺地域道路美装化事業	12
B 旧文武学校保存整備事業	13
C 「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業	14
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 善光寺御開帳にみる歴史的風致	15
2 弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	16
3 善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	17
4 戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	18
5 戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	19
6 水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	20
7 祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	21
8 大室古墳群にみる歴史的風致	22
9 街道と川田宿にみる歴史的風致	23
10 白髯神社と祭礼にみる歴史的風致	24
11 鬼無里神社の祭礼と町屋にみる歴史的風致	25
12 諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	26
■ 庁内体制シート（様式6）	27
■ 住民評価（様式7）	28
■ 協議会意見シート（様式7）	29
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	30

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	善光寺御開帳にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V	
2	弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	III, IV, V, VI	
3	善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	IV, V, VI	
4	戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V, VI	
5	戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	I, II, III, V, VI	
6	水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	I, II, III, VI	
7	祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	I, IV, V	
8	大室古墳群にみる歴史的風致	V, VI	
9	街道と川田宿にみる歴史的風致	I, IV, V	
10	白髯神社の祭礼にみる歴史的風致	IV, V	
11	鬼無里神社の祭礼と町屋にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V	
12	諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	IV, V	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保全と活用		
II	伝統技術の継承		
III	歴史的まちなみと周辺環境の保全		
IV	伝統的な祭礼等の継承		
V	文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		
VI	歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	長野県内の歴史的まちづくりネットワークの構築		
ii	松代地区における登録文化財の増加		
iii	戸隠竹細工の文化継承		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	善光寺周辺地域道路美装化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	旧文武学校保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業	歴史的資源を活用した観光振興や情報発信	

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	I 歴史的建造物の保全と活用	今後の対応	施策拡充

① 課題と方針の概要

歴史的建造物の修理には多額な費用を要することもあり、適切な維持管理が行われないまま老朽化や滅失が進んでいる。また、空き家となっているものも多く、十分に活用されているとは言い難い。

歴史的風致の核となる建造物を「歴史的風致形成建造物」に指定することにより滅失を防止し、修理等に対する支援を行うなど、保護措置を講じるとともに、まちづくり活動を行う地元組織等と連携しながら空き家に関する情報を共有し、歴史的建造物の利活用について検討をする。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	戸隠地域建造物修理修景助成事業	11件の修理助成	あり	H29～R4
2	歴史的風致形成建造物修理助成事業	6件の指定、6件の修理助成	あり	H26～28
3	伝統環境保存事業	修理・修景に対する指導、96件の助成	あり	S59～
4	旧文武学校保存整備事業	保存整備、利活用のための環境整備	あり	H23～R2
5	松代町文化財保存活用推進事業	文化財施設を活用したボランティア活動の促進	あり	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・老朽化が進んだ茅葺き屋根の建造物等6件を「歴史的風致形成建造物」に指定し、修理等に対する助成を行うことで適切な維持管理が図られ、それらを核とした戸隠神社中社・宝光社門前の町並みが、平成29年2月に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。それにより保存地区内の建造物等の修理・修景に対する補助金の交付など、歴史的建造物の保全に向けた支援体制が整えられるとともに、住民による景観整備の実施や地域の歴史や文化を継承するための活動が活発化している。

・松代地区の歴史的建造物において、甲冑体験や箏、投扇興などの日本文化を体験できるプログラムを開発し、インバウンドを含む来訪者に地元ボランティアガイドと連携して提供するなど、歴史的建造物の活用を促進した。

・伝統環境保存地区である松代地区の表柴町、代官町、馬場町、竹山町において、建造物や庭園等の修理・修景に対して専門家による指導及び助成を行うことで、歴史的な建造物や地域の歴史的風致の核となる泉水・泉水路が適切に保全された。



戸隠伝統的建造物群保存地区のまちなみ



文化財施設を活用したボランティア活動の様子

④ 自己評価

歴史的風致形成建造物の指定や伝統的建造物群保存地区の決定などにより、歴史的建造物の保護措置を講じることができたが、対象とならない建造物も多く、対策は十分ではない。

歴史的建造物において日本文化を体験できるプログラムを開発して、住民ボランティアとともに提供し、活用を促進した。

⑤ 今後の対応

引き続き歴史的建造物の保全に係る支援を実施するとともに、歴史的建造物の滅失防止や活用について、これまで実施してきた地域住民との勉強会を継続するなどして連携を深め、歴史的風致形成建造物や登録有形文化財への登録を推進する。

地元住民と連携して、歴史的建造物を活用した日本文化体験プログラムを来訪者に提供するとともに、歴史的建造物の空き家情報の発信を強化して、保存活用を推進する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	Ⅱ 伝統技術の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物を修理・修復するためには多額の費用が掛かるなどの理由から、解体や現代工法で改修されることにより、職人の仕事の間が失われ、なり手が不足するなど、伝統技術が失われている。また、茅葺屋根の歴史的建造物を維持するための茅材の確保と、それを支える伝統技術の継承にも課題がある。そのため、歴史的建造物の保全を目的とした地区指定や修理・修景に対する助成制度を運用することで、伝統的技術が必要な仕事の間を安定的に提供するとともに、住民や職人等と連携して伝統技術を継承するための仕組みをつくる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	戸隠茅場整備事業	毎年11月に茅葺屋根の材料確保のための茅刈り	あり	H26～R4
2	景観重要建造物修理助成事業（戸隠地域）	9件の修理助成（茅葺9件、板金1件）	あり	H26～30
3	歴史的風致形成建造物修理助成事業	6件の修理助成（大工1件、茅葺4件、石垣1件、板金1件）	あり	H26～28
4	戸隠地域建造物修理修景助成事業	11件の修理助成（大工8件、曳家1件、茅葺4件、石垣1件 ほか）	あり	H29～R4
5	伝統環境保存事業	修理・修景に対する指導、96件の助成	あり	S59～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・戸隠中社・宝光社地区が平成29年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、地区内の建造物の修理・修景等を行う保存事業が始まったことにより、大工・左官・曳屋・茅葺・石垣等の伝統技術を用いた仕事の間が増え、技術の継承に寄与した。地区内の茅葺屋根の適切な保全には、定期的に手を入れる必要があるなど、茅葺に係る仕事の間が増えたことで、茅葺職人が市外から移住し、保存事業に関わるようになった事例もある。

なお、地区内の茅葺屋根に使用する茅材を地区内で確保するため、中社地区内の茅場（戸隠スキー場中社ゲレンデ）において、毎年11月に地域住民を中心に学生や市民ボランティアを募って茅刈りを実施し、茅刈り技術の習得、継承が図られるとともに、定期的な茅刈りにより、良質な大茅（ススキ）の自生が続き、茅場の整備、継承が図られた。

・伝統環境保存区域においても、建造物や庭園等の修理・修景への助成事業を活用した修理等が毎年実施されており、伝統技術を必要とする仕事の間を安定的に提供していることで伝統技術の継承につながった。



伝統技術を活用した修理事業



茅刈りの様子

④ 自己評価

歴史的建造物の修理等に対する助成制度により、伝統技術を要する修理が毎年数件ずつ実施され、伝統技術の継承に寄与している。

戸隠地区においては、地域住民を中心に毎年茅刈りを行っているが、地区内の茅葺屋根の修理に十分な量が確保できていないため、活動を強化する必要がある。

⑤ 今後の対応

戸隠地区における茅葺屋根の修理に必要な茅材を地元産で確保できるよう、地域住民やボランティアの参加者を増やすなど、茅刈りに係る伝統技術の継承と普及を図る。

引き続き伝統的建造物群保存地区及び伝統環境保存区域における保存事業を計画的に進め、伝統技術を必要とする仕事の間を安定的に提供することで、伝統技術の継承を支援する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	Ⅲ 歴史的まちなみと周辺環境の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

連続性を有した歴史的まちなみの保護と、来訪者数に見合った駐車場の確保という二つの課題がある。

まちなみや景観に関する調査研究を行い、住民の理解と協力を得ながら伝統的建造物群保存地区や文化的景観の制度等を活用し、歴史的風致の維持及び向上を図る。また、歴史的環境を向上させるため、電柱電線類の地中化や移設、道路の美装化等を推進するとともに、歴史的風致を阻害しないアクセス駐車場の整備するなど、自動車交通の抑制対策を総合的に検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	善光寺周辺地域電線類地中化事業	電線類地中化による眺望景観の向上	あり	H17～R2
2	中央通り歩行者優先道路化事業	石畳舗装と歩道拡幅による魅力向上・機能充実	あり	H22～26
3	戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業	伝統的建造物群保存対策調査の実施	あり	H26～27
4	松代城跡東側駐車場整備事業	アクセス駐車場の整備の検討	あり	H25～R4
5	松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業	悉皆分布調査、詳細調査、活用法提案	あり	H22～26

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・善光寺門前の宿坊群などの路線において、電線類の地中化、石畳舗装を行い、良好な景観形成が図られた。

また、中央通り(善光寺表参道)において、善光寺の参道の雰囲気に合わせて石畳舗装を行い、周辺の歴史的建造物と一体となった沿道空間を確保するとともに、歩道の拡幅を行い、歩行者にとっての道路空間の魅力向上と機能充実が図られ、毎年開催している花の祭典「善光寺花回廊」などのイベントでも道路空間を有効に活用している。

・戸隠中社・宝光社地区において、伝統的な宿坊建築を中心に保存対策調査を実施し、調査成果により国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。また、同地区の保存計画に基づき、建造物の修理・修景等を行う保存事業や防災計画策定調査事業を住民と行政の協働により実施するなど、歴史的風致の維持及び向上が図られた。



中央通り歩行者優先道路化



中央通りを活用した善光寺花回廊開催時の様子

④ 自己評価

電線類地中化、道路美装化、歩道拡幅等の事業実施により、歴史的建造物と一体となった良好な景観形成を推進し、歴史的風致の維持向上が図られた。来訪者の利便性向上に資するアクセス駐車場設置の検討も進めている。

また、まちなみに関する調査研究に基づき、戸隠中社・宝光社地区の一部が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、住民と行政の協働による質の高い歴史まちづくりを展開している。

⑤ 今後の対応

引き続き無電柱化や道路美装化を進め、良好な景観形成を推進するとともに、様々な制度を活用し、歴史的風致の維持向上を図る。

また、引き続き歴史的風致を阻害しないアクセス駐車場の整備について、関係課及び地域住民と検討する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	IV 伝統的な祭礼等の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

人口減少や少子高齢化などによる担い手不足が原因で、伝統的な祭礼等の中には継承が危ぶまれている祭礼・行事がある。

地域住民や専門家等と連携しながら伝統的な祭礼等の内容や特色、実施日等の把握を行い、担い手の確保や育成等に取り組む。また、子ども達が伝統的な祭礼に触れる場を提供するなど、地域ごとの取り組みを支援する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形文化財支援事業	無形文化財3件の保存・公開に対する支援	あり	H25～R4
2	伝統芸能継承事業	伝統芸能の保存・継承団体に対する支援	あり	H28～R4
3	弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業	巡行屋台の組み立て等への補助	あり	H25～R4
4	鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業	インターネット等による祭礼の積極的情報発信	あり	H25～R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・伝統芸能を継承する団体に対し、用具の修理・更新、子供用具の購入、外部講師謝礼、体験教室の開催費用、指導用DVDの作成費用等の助成を行うとともに、世代や地域を超えた伝統芸能団体間の交流や、様々な伝統芸能への子供の参加を促すイベントの開催、活動団体の情報発信等を行い、郷土の伝統芸能の保存、継承につながっている。

・中央通り(善光寺表参道)において、市内の獅子舞団体が結集して演舞する「ながの獅子舞フェスティバル」を平成29年度から開催し、毎年演舞団体を増やしている。令和元年度は市外3市村からの5団体を含め81団体が演舞を行った。イベントは拡大しつつ定着し、市民が伝統文化に親しむ機会となっている。

・弥栄神社の御祭礼屋台巡行への参加が減少しているため、関係各町の屋台の保管状況調査を行い、現状を確認した上で参加を促し、屋台や祭礼用具の組立解体、補修等に対する補助を実施した。屋台巡行への支援を行うことで担い手の確保や育成につながった。



ながの獅子舞フェスティバル



屋台組み立て状況(問御所町)

④ 自己評価

活動団体への助成や、伝統芸能こどもフェスティバルなど伝統芸能の新たな披露の場の提供などにより、地域の活性化や担い手の確保、育成が進められているが、容易に解決できる問題ではないため、事業の検証を行いながら継続的に対応することが必要である。

⑤ 今後の対応

引き続き各団体への支援を行うとともに、団体間の交流や子ども達の参加を促すイベント、活動団体等の情報発信を活発化し、担い手の確保や育成を推進する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	V文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市の魅力であり観光資源である、数多くの文化財や伝統的な祭礼等の価値が十分に情報発信されているとは言い難い。

文化財の所有者や関係団体と連携し、文化財や歴史的風致の保存と併せて、その価値や魅力を引き出すことを意図した情報発信を積極的に行い、文化財を活かした観光振興に繋げていく。

また、来訪者が快適に文化財を回遊できるように、歩行者用案内板や説明板等を整備するとともに、ルートづくりを行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	松代町文化財保存活用推進事業	文化財施設でのボランティア活動の推進、真田宝物館ホームページの多言語化	あり	H25～R4
2	松代歴史文化の発信・誘客事業	地元団体による誘客事業等への補助	あり	H22～R4
3	日本文化体験プログラム開発事業	日本文化体験プログラムの磨き上げ	あり	H30～R1
4	「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業	ホームページによる情報発信	あり	H25～R4
5	鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	ホームページ・SNSによる情報発信	あり	H25～R4

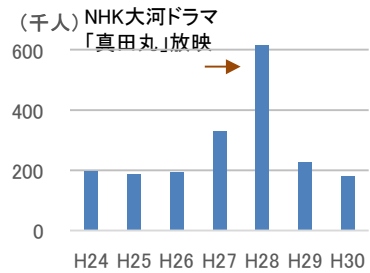
③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・住民主体のまち歩きツアーや、インバウンドを対象に含めたボランティアガイドの充実など、地域の歴史や文化の情報発信や誘客事業を実施することで、住民の誘客技術が向上するとともに、地域に対する愛着や知識も深まっている。

・松代地区における文化財の中核施設である真田宝物館のホームページにおいて、文化財施設ごとの紹介や、施設間の繋がりを紹介したルート等の記事を多言語対応することにより、インバウンドに対する情報発信が充実した。

・戸隠地区では、住民が作成した地区の歴史的まちなみのガイドマップを手に、地区内を歩き回る来訪者の姿が多くみられた。

・鬼無里地区では、鬼無里ふるさと資料館で公開されている「彫工北村喜代松」制作の屋台を巡行している祭礼について、ホームページやツイッターで情報発信することにより、祭礼当日は多くの人で賑わった。



松代地区市有観光施設入場者数の推移



戸隠地区住民が作成したガイドマップ



鬼無里観光振興会ツイッターによる周知

④ 自己評価

文化財や伝統的な祭礼等の価値や魅力について、市と各地域・団体等が連携して情報発信を行うとともに、文化財施設や歴史的建造物を活用した体験プログラムの開発や、ホームページの多言語化など、インバウンドにも対応した観光振興を展開している。また、情報発信拠点や、文化財をめぐる周遊道路の整備も進展している。

⑤ 今後の対応

引き続き文化財の所有者や関係団体と連携し、多言語化を含めた積極的な情報発信を推進するとともに、文化財をめぐる新たな周遊道路の整備を実施する。

また、今後大幅な増加が期待されるインバウンドを含め、あらゆる層に対して魅力的な情報発信の方策を検討し、観光振興や地域の活性化につなげる。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
方針	VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

市内には、未だに価値が明らかになっていない歴史的建造物が多数存在しているが、歴史的建造物や伝統的な祭礼等を対象とする調査が十分に実施されていない地域もあり、歴史的風致を維持向上するための重要な建造物や祭礼が明瞭な状況とは言い難い。
歴史的まちなみの形成や伝統的な祭礼等の継承について、全国的な視点から価値付けを行うとともに、後世に引き継ぐための問題点等を明らかにし、その対策を施せるよう、地域住民との協働により総合的な調査を長期的な視点で行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的資源活用コーディネーター派遣事業	外部の専門家・有識者を派遣（年3回程度）	あり	H26～R4
2	戸隠古道現状調査事業	調査（報告書作成）及び看板11か所の整備	あり	H25～27
3	戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業	保存地区決定に向けた保存対策調査（報告書作成）	あり	H26～27
4	史跡松代城跡保存整備調査研究事業	旧城跡の公有地化・復元整備のための調査研究（報告書作成）	あり	H25
5	松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業	悉皆調査・詳細調査、管理活用方法提案（報告書作成）	あり	H22～26

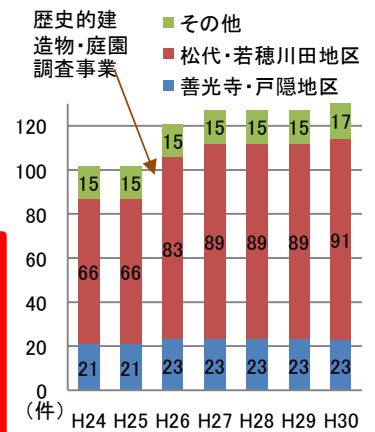
③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・戸隠中社・宝光社地区の宿坊や民家等の建築物、石垣等の工作物、生垣や庭園、水路等の環境物件の調査を実施し、歴史的価値を明らかにした。また、調査成果を地区住民に報告し、意見交換をすることで、地元の歴史や文化に対する知識や、今後の歴史まちづくりへの理解が深まり、伝統的建造物群保存地区及び保存計画の決定につながった。



保存対策調査の様子

・昭和56年に指定された史跡松代城跡の南側の復元整備を検討するため、平成25年に調査研究を進め、平成27年に史跡指定範囲が拡大した。これにより、松代地区の中核拠点として活用を含めた松代城跡第2期整備計画を策定し、旧城郭域を公有地化し、保存整備として史跡指定拡大部分の発掘調査等を進めている。



④ 自己評価

地域に残る歴史的建造物等の調査を行い、その価値を明らかにし地区住民へ報告することで、地域の歴史や文化に対する住民の理解が深まった。調査事業が文化財登録の促進や伝統的建造物群保存地区の指定など、重要な成果につながっている。

⑤ 今後の対応

調査時点から一定期間が経過したものについては、必要に応じて再調査するなど、継続的に対応する。
未調査の歴史的建造物や伝統的祭礼について、地域住民の協力のもと、計画的な調査を実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
効果	i 長野県内の歴史的まちづくりネットワークの構築		

① 効果の概要

信州の歴史的まちなみネットワークが構築され、活動を開始した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	歴史まちづくりの全国大会の実施	なし	H30
2	松代歴史文化の発信・誘客事業	あり	H22～R4
3	信州の歴史的まちなみネットワーク規約	なし	R1～

③ 効果発現の経緯と成果

・本計画の重点区域において、歴史文化の発信・誘客事業を展開しているNPO法人が中心となり、歴史まちづくりの全国大会を平成30年に開催した。

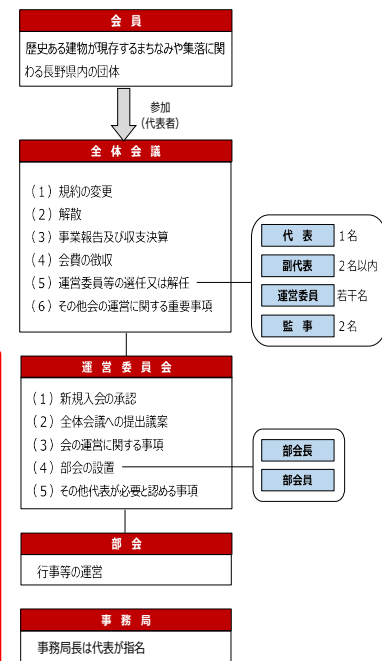
全国大会には当該NPO法人を中心に、本市及び長野県のほか、地元住民や住民自治協議会、商工会議所、地元の小学校や市内外の大学等、幅広い組織・個人が協力して歴史的風致の維持向上に関する情報交換を行い、課題などを明確化した。

・全国大会の開催を機に、地域、世代を超え、多様な視点を取り入れた歴史まちづくりを推進することを目的として、長野県内まちづくり22団体（R1.9.5現在）で構成する「信州の歴史的まちなみネットワーク」を構築し、規約、組織構成、活動方針を定めた。今後は活動方針に基づき、県内各地で活動するまちづくり団体が集い、情報交換を行うほか、NPO法人全国町並み保存連盟北陸甲信越ブロックとも連携して、歴史的風致を維持向上するための活動が広域的に展開される予定である。



歴史まちづくり全国大会の様子

信州の歴史的まちなみネットワーク 組織図



ネットワーク組織図

④ 自己評価

計画の重点区域において、歴史文化の発信・誘客事業を行っているNPO法人が、地区内外の個人や団体と連携して、歴史まちづくりの全国大会を開催した。大会は大いに盛り上がりを見せ、地元の歴史的風致維持向上の気運が高まった。

これを機に、それまで連携が薄かった県内のまちづくり諸団体とのネットワークが構築され、広域的な視点で歴史的風致維持向上を実現するための素地が作られた。

⑤ 今後の対応

歴史的まちなみの喪失をはじめ、各地で抱えている歴史まちづくりに関する深刻な課題を解消するため、情報を共有して議論を深め、問題解決のための具体的な対応策を構築し、広域的に歴史的風致維持向上を実現する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
効果	ii 松代地区における登録文化財の増加		

① 効果の概要

松代地区の歴史的建造物等の調査を元に文化財の登録が促進された。

② 関連する取り組み・計画

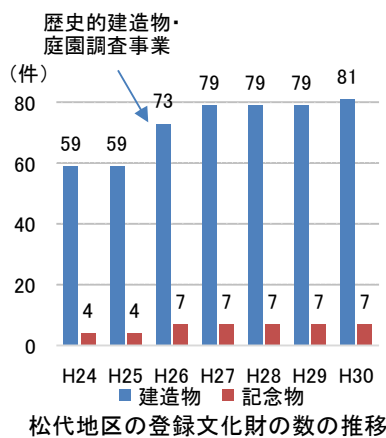
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	伝統環境保存事業	あり	S59～
2	松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業	あり	H22～H26
3	松代歴史文化の発信・誘客事業	あり	H22～R4

③ 効果発現の経緯と成果

・江戸時代の武家屋敷地の地割や建物のほか、松代地区に特有の水路である庭園や泉水・泉水路がとりわけ多く残る表柴町、代官町、馬場町、竹山町の4町の伝統環境を保全し、後世に受け継ぐため、昭和58年に当該地区を伝統環境保存区域として定め、当該区域内で行われる建造物や庭園等の修理修景に対して指導、助成を行い、歴史的環境の適切な保全を図った。

・松代地区の歴史的建造物や庭園、泉水路等を保全し、歴史的資源を活かしたまちづくりを行うため、平成22年から26年にかけて地区に残る歴史的建造物等の現況調査を行い、管理活用方法を提案した。この調査結果から、歴史的建造物等の価値が明らかになり、文化財の登録に結び付いた。

・松代町内のNPO法人が中心となり、町内に点在する登録文化財等を線でつなぎ、町全体をまるごと博物館として活性化させるため、まち歩きコースに組み入れ、登録文化財を活用している。



松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業の様子



松代町内のNPO法人主催のまちあるきの様子

④ 自己評価

歴史的資産が色濃く残る地域を伝統環境保存地区に設定し、修理修景等により歴史的環境を保全する事業を継続している中で、現況調査を行い、価値を明らかにした。その価値をまち歩き事業等で積極的にPRし、更には価値の高い文化財を登録する活動を町を挙げて継続している。

行政の事業と民間の活動が密接に関連しながら発展的に展開し、文化財登録に結実している。

⑤ 今後の対応

文化財登録を推進することへの地元住民の意向を尊重しながら、地元と行政との勉強会を実施して新たな手法の導入を検討するなど、今後のまちづくりの発展的な展開を検討し、歴史まちづくりのより大きな成果を導き出すように努める。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年																				
効果	iii 戸隠竹細工の文化継承																						
<p>① 効果の概要</p> <p>「戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致」や「戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致」と深く関係する「戸隠竹細工」を次世代へ継承する取り組みが進展した。</p>																							
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>戸隠地域建造物修景助成事業</td> <td>あり</td> <td>H29～R4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域伝統産業技術支援補助金</td> <td>なし</td> <td>H29～R3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域おこし協力隊の受け入れ</td> <td>なし</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ふるさと“ながの”応援寄附の活用</td> <td>なし</td> <td>H29～</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	戸隠地域建造物修景助成事業	あり	H29～R4	2	地域伝統産業技術支援補助金	なし	H29～R3	3	地域おこし協力隊の受け入れ	なし	H29	4	ふるさと“ながの”応援寄附の活用	なし	H29～
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																				
1	戸隠地域建造物修景助成事業	あり	H29～R4																				
2	地域伝統産業技術支援補助金	なし	H29～R3																				
3	地域おこし協力隊の受け入れ	なし	H29																				
4	ふるさと“ながの”応援寄附の活用	なし	H29～																				
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>・長野県指定の伝統的工芸品である「戸隠竹細工」は、戸隠中社地区に江戸時代から受け継がれており、材料となる「根曲がり竹(チシマザサ)」は、戸隠信仰の背景である雄大な山中に自生し、地区内の職人により一つひとつ手作業で編まれ、販売されている。戸隠竹細工のそばざるは、戸隠中社・宝光社地区の宿坊やそば屋において、郷土食である「戸隠そば」を盛りつける器として使用され、地区の歴史や文化を伝える貴重な資源となっている。</p> <p>・しかし近年、職人の後継者の確保や育成、品質や技術の向上、根曲がり竹が育つ森の保全など、課題がある。</p> <p>・そのため、竹細工の文化継承を任務とした地域おこし協力隊を受け入れ、講習会や体験会を実施するとともに、「戸隠竹細工」としての品質基準を定め、満たしたのものにはタグ(ロゴ入り)をつけて販売するなど、後継者の育成や技術・認知度の向上を図った。</p> <p>・また、市のふるさと納税に、地区の町並み整備と竹細工文化の継承を目的とした「戸隠の自然と文化を守るプロジェクト」というメニューをつくり、各種事業を推進した。</p> <p>・戸隠中社地区の竹細工店では、職人が生産及び販売を行っており、伝統的建造物群保存地区制度などを活用した歴史的まちなみの保全が、地区の歴史的な営みの継承にも寄与している。</p>																							
<p>④ 自己評価</p> <p>戸隠地区での伝統的建造物群保存地区の決定に向けて、地区の歴史や建造物の特性に関する保存対策調査、報告会を実施するとともに、まちづくりについて住民と勉強会を行い、地区の歴史や文化を見つめ直す機会となった。</p> <p>良好な景観形成だけでなく、地域の歴史や文化を活かした産業や、観光の発展に向けた取り組みを推進している。</p>		 <p>戸隠中社地区の竹細工店</p>  <p>竹細工職人</p>  <p>戸隠竹細工の森保全活動体験会</p>																					
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>引き続き伝統的建造物群保存地区制度をはじめ各種制度を活用し、歴史的な景観を維持向上するとともに、戸隠竹細工など地域の文化の発展、次世代への継承を図るため、地域住民、各種団体、行政が連携し、歴史まちづくりに対する理解を深める。</p>																							

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
取り組み	A 善光寺周辺地域道路美装化事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

善光寺門前の良好な景観形成を推進するため、仲見世及び宿坊群で構成される釈迦堂（しゃかどう）通り、法然（ほうねん）通り、仁王門（におうもん）通り、阿闍梨池（あじやりがいけ）通り及び御幸坂（みゆきざか）通りにおいて、周囲の景観に調和した舗装整備（石畳舗装または石畳風舗装）を行うもの。また、本事業に併せて電線類地中化も行う。

◎令和元年度までの実績

実施済みL=724m／計画延長L=1,084m（進捗率66.8%）

- ・H25年度 地元協議（石畳舗装の仕様を決定）
- ・H26年度 仁王門通りL=102、釈迦堂小路 L=26m
- ・H27年度 法然通り・羅漢小路 L=168m、釈迦堂通り L=73m
- ・H28年度 釈迦堂通り L=60m、阿闍梨池通り L=58m
- ・H29年度 阿闍梨池通り L=71m、上西之門通り・仁王門通り L=166m
- ・H30年度 御幸坂通り 測量設計、地元協議（石畳舗装の仕様を決定）
- ・R元年度 御幸坂通り一部着手



法然通り（整備前）



法然通り（整備後）



② 自己評価

善光寺門前の歴史的な建造物が多く残る院坊界隈の景観を向上させるため、整備方針に基づき、電線類を地中化した上で、石畳舗装等による道路美装化を実施するとともに、カーブミラーの支柱を環境色（茶系）のものに交換するなど、道路管理者をはじめ地元まちづくり協議会や地域住民と協議を重ね、民意の反映に努めながら事業を推進し、令和2年度の完了に向けて予定どおり進捗している。

外部有識者名	大上俊之（長野市景観審議会委員）
外部評価実施日	令和元年10月29日（火）

③ 有識者コメント

無電柱化を含む舗装整備によって通りの景観がすっきりし、宿坊や仲見世等の歴史的な建造物が連なる善光寺門前の歴史的街並みの景観が向上した。一方で、景観が整理されたことにより、既存の看板等が目立つようになったため、住民との協働による対応を検討していただくと、より景観の向上が図られると思う。

また、これから実施される城山公園の整備と連携し、善光寺と周辺の環境が一体となった景観となるよう整備し、院坊界隈の魅力を発信することで、城山公園や善光寺北側駐車場からの来訪者を宿坊や仲見世、参道周辺まで誘導できるようになると、景観の向上をきっかけに回遊性が向上すると思う。

④ 今後の対応

善光寺門前の歴史的な景観を向上させるため、長野北98号線（御幸坂通り）及び長野北236号線（歩道部）の道路美装化を引き続き進めるとともに、城山公園の整備とも連携し、善光寺と周辺環境が一体となった景観形成を図る。

また、善光寺周辺地域における回遊性の向上と情報発信の方法について、地元まちづくり協議会と検討する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
取り組み	B 旧文武学校保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>松代藩の藩校として安政2年（1855）に開校した史跡旧文武学校は、松代城下町の歴史を伝える重要拠点であるとともに、善光寺御開帳では、回向柱が安置される場所でもある。経年による老朽化が著しいため、現況調査を入念に行った上で、平成23年度より保存修理を適切に進めるとともに、施設の概要と歴史を説明するガイダンス設備や、VR技術を用いて砲術体験ができるバーチャル体験設備等の環境整備を行い、生涯学習や観光の拠点として積極的な利活用を促進する。</p> <p>◎令和元年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度 一部解体工事 ・平成24～28年度 耐震診断及び実施設計 ・平成25～令和元年度 保存修理工事（耐震補強工事含む） ・平成29年度 保存活用計画策定 ・平成30年度 展示整備に係る実施設計業務 ・令和元年度 展示整備 ・令和2年度 一般公開再開（予定） 			
		 <p>旧文武学校の全体イメージ</p>	
		 <p>保存修理の様子</p>	
		 <p>保存修理見学会の様子</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>生涯学習や観光の拠点として積極的に利活用するため、適切な建造物の保存修理と併せて耐震補強も実施した。工事期間中は、普段は見る事ができない文化財の内部構造を見ることができ貴重な機会ということで、地域住民や近隣小学校、公民館を対象とした見学会を開催するなど、文化財保護に関する周知を行った。特に、隣接する松代小学校とは、資料調査をはじめ、授業での活用、工事見学など、相互協力を行っており、地域住民の身近な文化財に対する理解を深めることができた。</p> <p>また、保存修理後のオープンに合わせて展示内容の充実を図るため、藩校という実際の学びの空間のなかで、施設の歴史や文化、当時の様子を伝え、学びや稽古を追体験できる施設として活用できるよう、先端技術の活用や、多言語に対応した整備を進めることができた。</p>			
外部有識者名	多田井幸視（長野市地方文化財保護審議会委員）		
外部評価実施日	令和元年10月31日（木）		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>保存修理について、再利用できる部材を活用した建造物の修理だけでなく、耐震補強も実施したり、展示の整備を進めるなど、適切な整備がなされている。</p> <p>また、トイレのユニバーサルデザイン化を進めるほか、文学所など車椅子対応ができない施設がある中で、タブレットによるバーチャルツアー等も検討しており、多くの来訪者に配慮した施設となるよう整備が進められている。今後、絵図や古写真等を基に植栽や内庭の整備をしていただけると一層雰囲気が高まると思う。</p> <p>旧文武学校の保存修理事業をきっかけに、松代地区に藩校が残された背景や歴史、文化などを、学校等とも連携し、地域の子どもたちに伝えていただきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>令和2年度の一般公開に向け、保存修理及び展示の整備を着実に進めるとともに、一般公開後の活用状況を確認しながら、植栽や内庭の整備等についても引き続き検討する。</p> <p>また、旧文武学校周辺の小・中学校などと連携し、教育の一環として活用できるよう検討するとともに、来訪者に地区全体を回遊していただけるよう、地区内のガイドと連携したり、周辺の文化財施設等を関連付けて紹介したホームページを活用するなど、利活用を積極的に促進する。</p>			

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
取り組み	C「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業	種別	歴史的資源を活用した観光振興や情報発信
<p>① 取り組み概要</p> <p>市有形文化財（工芸品）である「彫工北村喜代松」制作の神楽・屋台を保存するとともに、その木地を生かした「一木彫り」による透かし彫りの龍や唐獅子、牡丹など優れた技術の情報発信を行うもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼無里ふるさと資料館における展示・公開 <p>鬼無里ふるさと資料館において、4台の屋台（山車）と2台の神楽（太神楽）を展示・公開している。開館中は職員が展示ガイドを行うとともに、屋台のガイドブックの販売も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報発信 <p>市立博物館鬼無里ふるさと資料館の特設ページにて、屋台の特徴、魅力等を紹介している。また、市教育委員会の文化財データベースにより、屋台の文化財的な価値等を解説している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼無里神社春祭りにおける活用 <p>毎年5月の鬼無里神社春の例大祭において、「彫工北村喜代松」制作の屋台を活用した屋台巡行が行われている。地区内の小・中学生からお年寄りまで多くの住民が曳き手となり、地区内を巡行している。</p>		 <p>鬼無里ふるさと資料館展示の様子</p>  <p>屋台巡行の様子(鬼無里神社)</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>北村喜代松制作の屋台について、展示ガイドの実施やホームページの多言語化など、情報発信の充実だけでなく、鬼無里神社の春祭りにおいて屋台巡行を行うなど、住民の手により屋台が活用し続けられている。</p> <p>また、鬼無里神社の屋台の柱にひび割れなど損傷箇所が確認されたことから、専門家による修理方法の提案を受け、今後も屋台巡行を継続できるような手立てが住民により検討されるなど、屋台の活用を通して住民の意識の向上が図られている。</p> <p>なお、鬼無里神社の春祭りについて、SNSにより情報を発信するとともに、屋台の曳き手として来訪者の参加を受け入れるなど、地域住民だけでなく来訪者も一木彫りなどの優れた技術を間近に触れられ、歴史まちづくりに対する意識の向上が図れる貴重な機会となっている。</p>			
外部有識者名	多田井幸視（長野市地方文化財保護審議会委員）		
外部評価実施日	令和元年10月31日（木）		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>鬼無里ふるさと資料館での展示について、屋台を様々な角度から見学できる展示方法や、職員により詳しい説明を受けられる展示ガイド、ホームページの多言語化などにより、効果的に公開されている。さらに、鬼無里神社の屋台は、展示だけでなく巡行に活用されており、巡行による損傷が避けられない中、今後も活用し続けるために、住民が巡行ルートを改善したり、専門家の意見を聴き修理に向けた検討を進めるなど、その取り組みは大変素晴らしい。</p> <p>また、複数の貴重な屋台を持つことができた背景となる地区の歴史や文化、伝説等を発信するとともに、祭礼の意味を子供たちへ伝える機会をつくることや、屋台巡行の曳き手を地区外からより多く呼び込むことも検討していただけると、屋台巡行を継承するための活力になると思う。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>ホームページの多言語化に伴い、掲載内容を工夫し、北村喜代松制作屋台を通して地区の歴史や文化等をより多くの人に知ってもらうとともに、ふるさと資料館に来た人に満足してもらえるよう、展示ガイドなどの取り組みを引き続き実施する。</p> <p>また、鬼無里神社の春祭りにおける屋台巡行をきっかけに、資料館に保管されている他地区の屋台についても理解が広がるような情報発信を、関係者と共に検討する。</p>			

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	1 善光寺御開帳にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

善光寺では、数え年で7年に一度、前立本尊の御開帳が催されている。期間中は、「中日庭儀大法要」をはじめ、様々な法要等が行われ、全国各地から多くの参詣者が集まる。

御開帳に欠かせない回向柱は、松代藩真田家が善光寺本堂建立の普請奉行に当たった縁で松代地区から寄進され、人々が回向柱を引きながら松代町内及び善光寺表参道（中央通り）を練り歩き奉納される。

② 維持向上の経緯と成果

●善光寺本堂耐震補強事業

平成22年度及び23年度に実施した国宝善光寺本堂の耐震診断では、本堂に行くべき耐震補強を、短期的視点と、本堂の大規模な修繕工事に併せて行う長期的視点とに分けて提案がなされ、まずは短期的視点からの天井吊補強工事をはじめとした天井部分の落下防止対策の補強工事を実施し、安全を確保した。

●善光寺周辺地域電線類地中化事業

善光寺門前の仲見世及び宿坊群で構成されるエリアの6路線（計画延長939m）のうち、4路線（558m）について電線類地中化事業が完了し、良好な景観形成が図られた。

●中央通り歩行者優先道路化事業

回向柱の奉納行列が練り歩く、善光寺の参道である中央通り（700m）について、善光寺の参道の雰囲気に合わせて石畳舗装を行い、歩道の拡幅を行うことで、道路空間の魅力が向上した。



中央通り歩行者優先道路化



善光寺御開帳回向柱奉納 H27.3



無電柱化・道路美化整備前 H24.6



整備後 H28.5

③ 自己評価

善光寺本堂耐震補強事業や善光寺経蔵保存修理事業など、歴史的建造物の保存修理をはじめ、周辺路線の電柱電線類地中化、美化、隣接する城山公園の再整備等を実施し、良好な景観を形成するとともに、歩道拡幅により参拝者の安全性及び回遊性が向上した。

④ 今後の対応

引き続き善光寺周辺の電線類地中化事業、道路美装化事業、城山公園再整備事業を実施し、良好な景観形成を図るとともに、整備した善光寺表参道地域交流拠点を活かして、来訪者に対する歴史文化の情報発信を行う。

また、回向柱の奉納行列が練り歩く松代地区の旧文武学校や旧松代駅舎の整備を進め、良好な景観形成を図る。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	2 弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

善光寺門前の弥栄神社の祇園祭は、善光寺御開帳や記念行事に合わせて数年に1度行われていたが、平成24年からは毎年行われるようになった。郷土の匠によって制作された屋台が巡行加盟町から出され、土蔵造りや煉瓦造りなどの建造物が建ち並ぶ中央通り(善光寺表参道)や善光寺門前の宿坊・仲見世などの歴史的まちなみを背景に、住民が雅やかかつ威風堂々と曳行して御祭礼を華々しく彩る。

② 維持向上の経緯と成果

● 弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業

善光寺周辺の各町が保有し、弥栄神社の祇園祭で曳き回される屋台や祭礼用具の組立及び解体、補修等に対して補助金を交付することで、巡行屋台が一定数確保され、祇園祭は、平成24年からは毎年開催されている。歴史的まちなみを背景に、住民等によって曳き回される屋台巡行が祭りを華やかに彩り、賑わいを増している。



中央通り歩行者優先道路化
整備前 H22.6



整備後 H27.4

● 善光寺周辺道路美装化事業

弥栄神社の御祭礼の会場となる、善光寺門前の仲見世及び宿坊群で構成されるエリアの7路線(計画延長1,084m)のうち5路線(724m)について、石畳舗装又は石畳風舗装による道路美装化事業を行い、良好な景観を形成した。

● 中央通り歩行者優先道路化事業

弥栄神社の御祭礼で屋台を巡行する、善光寺の参道である中央通り(700m)について、参道の雰囲気に合わせて石畳舗装を行い、歩道の拡幅等を行うことで、歴史的景観と祭礼とが調和した風致を醸し出している。



弥栄神社の御祭礼屋台巡行
H29.7

③ 自己評価

中央通り(善光寺表参道)の歩行者優先道路化事業や、善光寺周辺道路美装化事業を行い、沿道空間を確保し、良好な景観を形成して、弥栄神社の祇園祭における屋台巡行の歴史的風致を醸成した。

また、屋台の保管状況を調査して現状を明らかにし、巡行のための支援を行うことで、祭礼の開催に寄与している。

④ 今後の対応

巡行屋台を一定数確保するため、屋台や祭礼用具の組立及び解体、補修等に対する支援を引き続き実施していくとともに、歴史を有する祭礼の主要な行事である屋台巡行の担い手確保や、後世への継承を図るため、情報発信を強化する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	3 善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

善光寺周辺には、歴史的建造物や伝統的営みが続けられている寺社が数多く存在する。善光寺の比較的近くに位置する湯福神社、妻科神社、武井神社は、善光寺三社と呼ばれ、古くから敬われてきた。それぞれの境内には歴史的建造物が複数残され、善光寺門前の住民が茅の輪くぐりや御射山祭、御柱祭などの地域色豊かな伝統的祭礼を今も途絶えることなく受け継いでいる。

② 維持向上の経緯と成果

● 伝統芸能継承事業

祖先の優れた文化活動の所産であり、長い年月の間に大切に守られてきた郷土の伝統芸能を後世に継承する団体に対し、伝統芸能に用いる用具の修理・更新、子供用具の購入等に必要な経費の一部を助成し、保存・継承が図られた。

● 中央通り歩行者優先道路化事業

善光寺を訪れる人が、善光寺三社をはじめとした善光寺周辺に点在する神社仏閣を訪れる際にアクセスの要路となる、善光寺表参道の中央通り(700m)について、表参道の雰囲気に合わせて石畳舗装を行い、景観の質を向上させるとともに、歩道の拡幅など、歩道空間の機能を向上させることで、道路空間の魅力が増進した。

● 善光寺表参道地域交流拠点整備事業

善光寺表参道に面し、善光寺三社をはじめとした善光寺周辺に点在する神社仏閣へのアクセスにも便利な場所に、地元住民や観光客に歴史文化の情報を発信する地域交流拠点を整備した。



無電柱化・道路美化化 整備前 H21.6



整備後 H28.5



善光寺表参道地域交流拠点の整備状況 R1.12

③ 自己評価

道路美化化等各種事業の実施により、善光寺周辺寺社を結ぶ善光寺表参道や宿坊界隈の通りの景観及び歩道機能が向上し、アクセス・回遊性が高まるとともに、当該寺社の祭礼などに用いる用具等の修理費などを助成することで、歴史的風致がより良い形で継承されてはいるが、当該寺社の祭礼等を包括した歴史的風致に関する情報集約及び情報発信は、十分ではない。

④ 今後の対応

引き続き景観の向上及び善光寺周辺寺社へのアクセス向上にも資する善光寺周辺の道路美化化事業、電線類地中化事業を実施するとともに、地域色豊かな当該寺社の伝統的祭礼により多くの市民や観光客が訪れるように、善光寺表参道地域交流拠点の活用を含め、情報発信の方法を検討・実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	4 戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

戸隠神社では、数え年で7年に一度、式年大祭が行われる。奉告祭・着山式に始まり、離山祭で締めくくるまでの期間中、神輿「渡御の儀」をはじめ、宣澄踊りや太々神楽、獅子神楽など、江戸時代以前の神仏混淆時代から行われていた、伝統的な営みをみることができる。

中でも、宝光社社殿と中社社殿の間を神輿行列が進む「渡御の儀」及び「還御の儀」では、神輿の前後に祭神を護る形で、神楽、神楽装束、稚児、戸隠各地区の山車・獅子などが連なった豪華絢爛な行列が、茅葺の大屋根をもつ宿坊や民家など歴史的建造物が建ち並ぶまちなみの中を進んでいく。

② 維持向上の経緯と成果

●無形文化財支援事業

戸隠神社式年大祭において行われる宣澄踊りは、市無形民俗文化財に指定されている。文化財の記録作成等の保存・公開に必要な経費の一部について助成を行うことで、伝統文化の保存・継承が図られた。

●戸隠地域建造物修理修景助成事業

戸隠伝統的建造物群保存地区内の宿坊や民家等を、保存計画に定められた基準に則り、修理又は修景する場合は、経費の一部を助成し、修理等は、文化庁及び長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導、助言を受けて行われている。この事業により、祭礼の舞台である歴史的なまちなみが整備され、祭礼の際には、まちなみと調和した歴史的風致を醸し出している。

●戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業

伝統的建造物群保存対策調査により、戸隠中社・宝光社地区における歴史的町並みの価値が明らかになり、伝統的建造物群保存地区の決定、重要伝統的建造物群保存地区の選定に至った。これにより、祭礼の舞台である歴史的まちなみの整備を適切に推進している。



宿坊の茅葺屋根修理
整備前 H26.4



整備後 H26.11



戸隠神社式年大祭 渡御の儀
H27.4

③ 自己評価

伝統芸能への助成とともに、歴史的建造物の修理を行うことで、伝統技術の継承と良好な景観形成が図られ、特に、式年大祭の期間中は、地区内外から多くの参拝者が訪れて盛り上がりを見せている。平時においてはもとより、祭礼の場として相応しいまちなみとなり、祭礼と場とが一体化した、質の高い歴史的風致を創り出している。

④ 今後の対応

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、妙高戸隠連山国立公園の一部にもなっている中社・宝光社地区の歴史的な町並み景観を向上させるため、戸隠地域建造物修理修景助成事業を引き続き進めていくとともに、周囲の歴史的建造物に調和した道路美装化事業や、眺望景観を向上させる電柱電線類移設事業を実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	5 戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

江戸時代以前より、全国各地から多くの人々が参詣に訪れた善光寺と戸隠神社の間には、双方を行き交うための「信仰の道」としての古道があり、今も神社参拝を兼ねたトレッキングコースとして人々に利用されている。下草刈りや、1町ごとに造られた「丁石」の点検など、地域住民による日常的な維持管理活動によって、この道は今も良好な状態に保たれている。

② 維持向上の経緯と成果

●戸隠古道現状調査事業

善光寺と戸隠とを結ぶ信仰の道である戸隠古道について、その歴史文化の情報を発信し、より歩きやすい道として整備するため、現状調査を行った。この調査により、善光寺との広域にわたる歴史的な関連性を中心に、良好な歴史的風致の存在を明らかにした。

●戸隠地域建造物修理修景助成事業

戸隠信仰や戸隠古道に深く関わる戸隠伝統的建造物群保存地区内の宿坊や民家等を、保存計画に定められた基準に則り修理又は修景を行う場合、経費の一部を助成し、文化庁及び長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導、助言を受けて修理等がなされている。この事業により歴史的なまちなみが整備されており、祭礼の際にはまちなみと調和した歴史的風致を醸し出している。

●茅場整備事業

かつて「信仰の道」として多くの参詣者が往来していた戸隠古道は、今もトレッキングを兼ねた参拝者や観光客が往来するとともに、古道周辺には、茅葺屋根をもつ歴史的建造物が多く残る。

歴史的建造物の茅葺屋根を適切に維持保全するため、地元の茅材の確保と技術の継承を目的に、地元住民を中心に学生や市民ボランティアが、地元の茅場である戸隠スキー場中社ゲレンデにおいて、毎年11月に茅刈りを行っている。



宿坊の茅葺屋根修理
整備前 H26.4



整備後 H27.11



戸隠古道大ウオーク H30.5

③ 自己評価

戸隠古道の歴史や現状の調査結果を踏まえて、より歩きやすい歩道に整備を行った。また、古道周辺の歴史的建造物の適切な修理を行うことで、良好な景観が形成されるとともに、伝統技術の継承が図られた。

④ 今後の対応

戸隠信仰と戸隠古道に深く関わる中社・宝光社地区の歴史的な町並み景観を向上させるため、戸隠地域建造物修理修景助成事業を引き続き進めていくとともに、周囲の歴史的建造物に調和した道路美装化事業や、眺望景観を向上させる電柱電線類移設事業を実施する。

また、多くの人に古道の歴史的価値について認識してもらい、歩いてもらえるよう、効果的な情報発信を行う。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	6 水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

北を千曲川、残り三方を急峻な山々に囲まれた松代城下町では、江戸時代より武家屋敷地を中心に独自の水系システムが発達し、泉水を中心とする庭園や、泉水と泉水をつなぐ水路網が、現在も残されている。かつて食器の洗浄や養鯉などに利用された庭園の泉水は、現在も防火用水や畑への散水など、生活に適応した利用がなされており、地形を活かした歴史的庭園群と地域住民による保全活動によって、貴重な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

● 伝統環境保存事業

江戸時代の武家屋敷地であり、往時の地割や建物、松代特有の水路網や泉水のある庭園が良好に残る4町（表柴町、代官町、馬場町、竹山町）の伝統環境を保存するため、区域内で行われる伝統環境の修理・修景に対して助成を行い、歴史的風致を形成する建造物・庭園等の維持保存に努めている。



石組水路の改修
(H30伝統環境保存事業)

● 松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業

松代地区の歴史的建造物や庭園・泉水等を保全し、歴史的資源を活かしたまちづくりを行うため、平成22年から26年にかけて地区に残る歴史的建造物、庭園・水路等の現況調査を行い、管理活用方法を提案した。この調査成果が基となり、松代地区内での登録文化財が増加しており、地元と行政が勉強会などを行って、保存活用の方策を検討している。



「お庭拝見」の様子

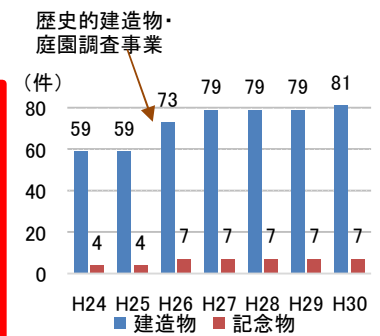
● 松代歴史文化の発信・誘客事業

城下町の「お庭拝見」イベントの開催など、地域住民で構成する「NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会」が、庭園・水路等のまち歩き推進、情報発信事業を進めており、地元住民及び来訪者に対する松代城下町の歴史的風致の理解促進につながった。

③ 自己評価

松代城下町特有の水路・庭園にみる歴史的風致を継承するため、伝統環境保存事業を実施するとともに、その認知度を上げるために調査、情報発信、誘客事業を実施している。

事業により一定の効果は上がっている一方、開発による伝統環境の滅失や空き家化の事例も増えているため、地元住民との勉強会を開催し、良好な歴史的景観を維持する方策を検討している。



松代地区登録文化財件数の推移

④ 今後の対応

地元住民の理解と協力のもと、勉強会などを実施して、松代城下町の歴史的景観の維持向上を図るための新たな手法の導入を検討する。

また、貴重な城下町の庭園群や水路網、地元住民による水利用の営みなどを多くの人に知ってもらうための効果的な情報発信を行い、外国人観光客や移住希望者などを含めた交流人口の増加を図る。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	7 祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

松代城下町では、江戸時代から続く代表的な祭礼として、毎年7月に祇園祭が行われている。祭では、玉依比売命神社に奉納されている神輿が町内を巡行し、町屋を中心に勢獅子の舞が繰り広げられる。多くの町屋が建ち並ぶ歴史的まちなみを舞台とする祇園祭は、江戸時代の絵巻物を彷彿させ、松代城下町の風情を現代に伝える重要な歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

● 松代地域道路美装化事業

旧松代藩の城下町である松代の中心市街地は、江戸時代から続く祇園祭の、神輿巡行の舞台である。城下町にふさわしい歴史的景観とするために、周囲の歴史的建造物に調和した歩車道の美装化（計画延長600m内実施済み473m）を行った結果、景観が向上し、祭礼が行われる際には、城下町の歴史的まちなみと一体化した歴史的風致を醸し出している。



道路美装化の様子
整備前 H28.5

● 松代地域耐震性貯水槽整備事業

登録文化財である玉依比売命神社周辺の防火対策として、耐震性貯水槽1基（60㎡）を設置し、歴史的建造物の防火対策を充実させた。



整備後 H28.12

● 松代歴史文化の発信・誘客事業

地元のまちづくりNPO法人が実施する、まち歩き推進事業、情報発信事業により、祇園祭等の城下町の祭礼の情報を地区内外へ発信している。これにより、松代城下町への関心を高め、観光振興に役立っている。

③ 自己評価

玉依比売命神社の防火対策を実施したほか、祇園祭の神輿巡業の舞台となる道路の美装化を行い、祭礼を引き立たせている。

また、地元のまちづくりNPO法人などが、祭礼に関する情報発信を行い、町内外へのPRを行った。

しかし、魅力的・効果的な情報発信が行われているとは言えず、特に、地区外の認知度を向上させる必要がある。



祇園祭 勢獅子の様子

④ 今後の対応

松代地区を代表する伝統的な祭礼である、祇園祭にみる歴史的風致について、その魅力を市民や、インバウンドを含む多様な観光客に対して、より効果的に伝える方法を検討し、実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	8 大室古墳群にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物や伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

大室古墳群は、総数500余基を数える東日本屈指の大古墳群である上、石を積み上げて墳丘とした「積石塚」や、天井石を屋根形に組み合わせた「合掌形石室」が集中する、特徴的な古墳群である。

古墳群は、大正時代より松代町大室地区の地元住民を中心とした保存会によって、保存・継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

● 地元団体による情報発信・誘客事業

大室古墳群保存会が中心となって、10月第3日曜日に「大室古墳群まつり」が開催されるようになった。この祭りは、地元住民にとっては古墳群の再認識の場となり、地元外の市民にとっては来訪する良い機会となっている。



大室古墳群まつり 火おこし体験 H30.10

● 史跡大室古墳群保存整備事業

積石塚古墳・合掌形石室が密集して分布する、遺構復元整備ゾーンの古墳を修理するなどして保存・継承するとともに、周辺の自然環境を保全し、園路や説明板等の便益設備を整えて利便性を高め、一般市民による見学はもとより、学校教育や生涯学習の場としての価値を高めている。



エントランスゾーンの整備状況 H26.5

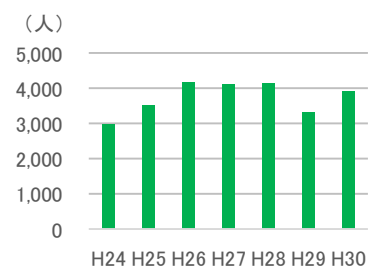
● 大室古墳群アクセス道路整備事業

整備が完了したエントランスゾーンや、ガイダンス施設「大室古墳館」を拠点に、史跡の保存や利活用を図っているが、史跡までの道路幅が狭く、大型バスの進入ができない状態となっている。史跡の保存活動や利活用を促進して、歴史的価値の周知をさらに進めていくために、地元のアクセス道路対策委員会と協力して、アクセス道路の整備を進めている。

③ 自己評価

史跡保存整備は計画通り進めているが、アクセス道路整備の完了にはまだ時間がかかる状況である。

来訪者数は、ここ数年4,000人前後で推移しているが、アクセス道路が未整備の現状を考慮すると、潜在的な来訪希望者は少なくないと推察されるため、道路整備を進めつつ、歴史的価値の認知度をさらに高めていく必要がある。



大室古墳館の入館者数の推移

④ 今後の対応

引き続き古墳群周辺の自然環境を保全し、園路や説明板等の便益設備を整えて利便性を高めるとともに、アクセス道路整備事業について、地元住民・地権者からの同意を得て、できるだけ早く実施する。また、古墳群の貴重な価値や多彩な魅力を掘り起こして、より効果的に情報発信を行う。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	9 街道と川田宿にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

北国街道松代道の宿場の一つである川田宿には、日本陣の西澤家住宅を始め、今も当時の宿場町の町割りが残っている。川田宿では、古くからの秋葉信仰に加え、数え年で7年に一度ごとに町川田神社で御柱祭が行われており、活気あふれる宿場町の風情が伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

● 川田宿PR活用事業

川田宿を訪れる観光客に、川田宿の歴史的町並みや、伝統文化を広くPRするため、川田宿ガイドの会が主体となり、案内ガイドの実施や、まち歩きガイドマップの作成など、ガイド活動を行っている。また、川田宿音頭を作り、川田宿の歴史文化をPRするとともに、地元中学生への講習を行うことで、歴史的風致を伝承している。



川田宿ガイドの会による活動

● 旧信濃川田駅保存整備事業

川田宿の歴史を伝える資料館及び来訪者に対する案内拠点として、地域における歴史的建造物である旧長野電鉄屋代線信濃川田駅の駅舎を利活用するため、内部改修と外観修景を計画しており、具体的な管理・活用方法等について、地元と市が協議をしている。外観修景の一環として、地元住民が壁面塗装や花壇整備を行った。



駅舎の活用・管理方法の協議

③ 自己評価

川田宿ガイドの会が、定例会や先進地での研修によりガイド技術を磨きながら、来訪者に対するガイド活動を行っているほか、パンフレットを作成してPRをしている。

しかし、川田宿を中心とした歴史的風致に関する認知度は高いとは言えず、活用方法なども具体化していない。

また、地元と市で旧信濃川田駅保存整備に係る協議を行っているが、管理方法や活用方法などについて具体化する必要がある。



住民による駅舎壁面塗装の様子

④ 今後の対応

川田宿を活用する目的や方法について、地理的に隣接し、歴史的なつながりの深い松代地区との関連性に焦点を当て、面的な事業展開を視野に入れるなどしながら協議を活発化させ、歴史的風致の維持及び向上に資する具体的な活動を創り出す。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	10 白髯神社と祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

白髯神社（しらひげ神社）では、毎年春と秋に伝統的な祭礼が催されている。祭礼では、国の重要文化財に指定されている本殿の一般拝観が行われるとともに、中心的な祭事である神楽巡行では、明治時代以降の蚕室型民家の中を神楽が曳き出されて祭りを盛り上げている。

② 維持向上の経緯と成果

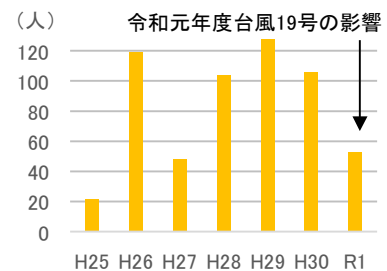
● 鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業

鬼無里観光振興会が、ホームページやSNSにより白髯神社の祭礼について情報発信を行うとともに、公益財団法人ながの観光コンベンションビューローが、鬼無里地区の文化財等をめぐる体験型ツアーを定期的に開催している。その結果、白髯神社の祭礼を含めた情報が発信され、地元住民のみならず、来訪者で賑わいを見せている。



白髯神社春祭りの様子 H30.5

また、鬼無里観光振興会と地元住民の協働により、「鬼無里フットパス」という、地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことができるコースを紹介したガイドマップを作成し、白髯神社や祭礼をはじめ、鬼無里地区全体の見どころについて、来訪者へ情報発信を行っている。



「鬼無里地区の文化財等を巡る体験型ツアー」参加者の推移

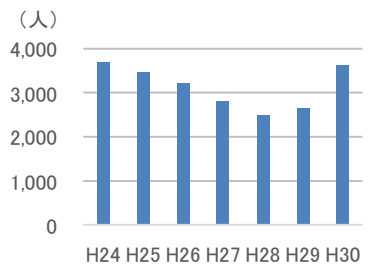
● 「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業

白髯神社の神楽は、彫工北村喜代松の手による精緻な彫刻が施され、市有形文化財（工芸品）に指定されている。鬼無里ふるさと資料館において展示し、優れた技術の情報発信をしている。



鬼無里観光振興会、住民で作成したガイドマップ

令和元年度には、同館のホームページの内容を見直し、多言語化して情報発信を強化した。



鬼無里ふるさと資料館の入館者数の推移

③ 自己評価

ホームページやSNSにより、白髯神社の祭礼について情報発信をし、毎年定期的に伝統的な祭礼が催されている。賑わいを見せてはいるが、認知度は高いとは言えない。情報発信の方法を含め、地区内外の人々を惹きつける、効果的な方策を検討する必要がある。

④ 今後の対応

より多くの人々が、白髯神社及び祭礼に興味関心を持ち、訪れ、その歴史的風致を体感してもらえよう、効果的な情報発信の方法・内容を検討し、実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	11 鬼無里神社の祭礼と町家にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

鬼無里神社では、毎年5月初旬に精巧な彫刻を特徴とする屋台が曳き出されて、春祭りが行われる。交通の要衝として栄え、中2階を出梁造りでせり出す形式の町屋や切妻造りの町屋など、明治時代から大正時代にかけての歴史的建造物が軒を並べる歴史的まちなみの中を屋台が練り歩いて、かつての繁栄を偲ばせている。

② 維持向上の経緯と成果

●「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業

鬼無里神社の屋台は、彫工北村喜代松の手による精緻な彫刻が施され、市有形文化財(工芸品)に指定されている。鬼無里神社の祭礼において巡行しているほか、平時には鬼無里ふるさと資料館において展示し、名工の優れた技術について情報発信をしている。令和元年度には、ホームページの内容の見直し及び多言語化を行い、情報発信を強化した。

●コーディネーター派遣事業

鬼無里神社の祭礼において巡行している「彫工北村喜代松」制作の屋台の柱にひびが入っているなど、住民が屋台巡行に不安に感じ、実施が危ぶまれていたが、平成30年度に修理方法等について専門家から意見を聴いたことで、修理を行うことを決断し、屋台巡行を継続できるようになった。

●松巖寺観音堂・経蔵保存修理事業

鬼無里神社の祭礼において、屋台巡行のルート沿いに位置する松巖寺の観音堂・経蔵は、市有形文化財及び歴史的風致形成建造物に指定されているが、老朽化等による損傷と後世の改変が著しい状況であった。平成26～27年度には観音堂を、平成28～29年度には経蔵を保存修理するとともに、当初に近い姿に復原整備を行った。



整備前

H28.6



整備後

H29.12

松巖寺経蔵保存修理

③ 自己評価

地域の文化財である「彫工北村喜代松」制作の屋台を活用した祭礼が、毎年定期的に開催され、来訪者にも曳き手として参加してもらうことで、名工の優れた技術を広く発信することができた。

また、屋台巡行を継承するため、専門家を派遣して地域住民の主体的な検討を支援したほか、巡行ルート沿いの歴史的建造物を保存修理し、歴史的風致を向上させた。



屋台状況調査の様子

④ 今後の対応

より多くの人に、郷土の名工である「彫工北村喜代松」制作の神楽・屋台の価値を知ってもらい、鬼無里神社の伝統的祭礼を訪れてもらえるよう、効果的な情報発信の方法・内容を検討し、実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
歴史的風致	12 諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

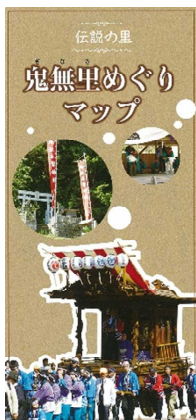
諏訪神社では、鬼無里地区で唯一の御柱祭が数え年で7年に一度、寅と申の年に、途絶えることなく行われている。地元の山で切り出された御柱は、山間地集落の景観の中を住民によって音頭をとりながら曳行される。地域固有の伝統的な祭礼は、今も受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● 鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業

鬼無里観光振興会が、ホームページで諏訪神社の御柱祭の情報発信を行い、地元住民のみならず、来訪者も里曳きに参加し、賑わいを見せた。

また、鬼無里観光振興会と地区住民の協働による鬼無里地区全体のガイドマップの刷新や、鬼無里地域歴史風致維持向上協議会による鬼無里の歴史的風致に関するマップの作成は、諏訪神社や白髭神社、鬼無里神社など、地区全体の魅力を見つめ直す契機となった。



諏訪神社御柱祭の様子 H28.5

鬼無里地域歴史風致維持向上協議会で作成した歴まちマップ



鬼無里観光振興会、住民で刷新したガイドマップ

③ 自己評価

諏訪神社では数えで7年に一度、鬼無里地区では唯一の御柱祭を行っている。SNS等により情報発信をすることで、賑わいを見せてはいるが、認知度は高いとは言えないため、情報発信の方法を含め、地区内外の人々を惹きつける効果的な方策を検討する必要がある。

④ 今後の対応

より多くの人に諏訪神社及び祭礼に興味関心を持ち、訪れてもらうため、効果的な情報発信の方法・内容を検討し、実施する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の実施に当たり、都市整備部都市政策課歴史的まちなみ整備室と教育委員会事務局文化財課による事務局を設け、随時事務局会議を開催して、計画を円滑に推進のための協議を行っている。新規事業の検討など、特に必要がある場合には、随時コアメンバ会議などを組織している。

事務局会議で決定した方針に基づき、庁内関係課で構成する「歴史まちづくり推進会議」を年2回実施し、全庁挙げて歴史まちづくりを推進する体制を採っている。各課の事業展開と当該計画との関連性等により、参画課を適宜増やすなど調整している。

また、景観・屋外広告物に関する事業を統括する都市政策課景観担当と年2回程度協議を行い、問題点の洗い出し及び解決に向けた検討を行っている。当初は、都市政策課内の歴史的まちなみ整備室と景観担当の2担当で開催していたが、対象案件に応じて、都市政策課都市計画担当及び文化財課にも協力を要請するなど、柔軟に運用している。

計画の策定前と比較し、庁内の情報提供及び協力体制は格段に向上しているものの、計画の達成には更なる連携強化が必要であるため、計画の目的の周知と、協力関係の強化を図る。



令和元年度第1回歴史まちづくり推進会議の様子



令和元年度第1回事務局会議の様子

② 庁内の意見・評価

効果的に計画を推進するための庁内会議の在り方などについて検討するため、庁内関係課により組織する「歴史まちづくり推進会議」の参画課にアンケートを行い、14課から回答を得た。

質問1：計画に位置付けた事業はあるか。

結果：ある 9 ない 5

質問2：(1)で「ある」と回答した場合、計画に記載されたメリットはあると思うか。その理由は。

結果	ある	3
	ややある	5
	ほとんどない	1

「ある」又は「ややある」の理由

- ・総合ビジョンとの整合が図れ、目標が明確になる。
- ・事業推進の指針となる。
- ・課題共有により解決のヒントとなる。
- ・補助金が利用できる。

「ほとんどない」の理由

- ・補助金、起債等のメリットが無い。

質問3：効果的に歴史まちづくりを進めるために必要と思うこと。

- ・情報発信を強化すること。（地域において中心となる人を選定し情報共有すること。）
- ・地域住民の意見を反映させること。
- ・地域住民・NPOへの支援策を拡大すること。
- ・庁内全体の更なる情報共有と連携、地区ごとの連携（地区事業について担当課の打ち合わせ）
- ・各事業が関連性をもち、相乗効果が出るようにすること。
- ・順調でない事業について、協議会メンバーによる協議を通じて問題解決の糸口を探ること。

❖ 以上を踏まえ、歴史まちづくりに係る庁内及び地域での取り組みや国の支援策等について、より一層情報共有を行うなど、連携体制を強化する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
------	-----	--------	---------

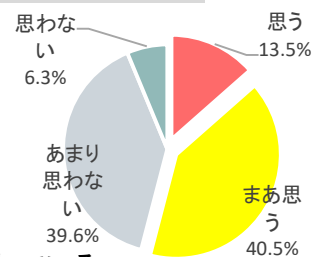
① 住民意見

計画における重点区域を構成する、9行政区域の住民自治協議会に依頼し、住民116人を対象に住民アンケートを行ったところ、以下の意見をいただいた。 ※ 回答数116 複数人で協議の上1通として回答したものは、協議に参加した人数を乗じ、無回答は除いて集計した。

質問1：回答者の地区の歴史的まちなみは良好に保全活用されていると思うか。

結果：

思う	まあ思う	あまり思わない	思わない
15	45	44	7
13.5%	40.5%	39.6%	6.3%



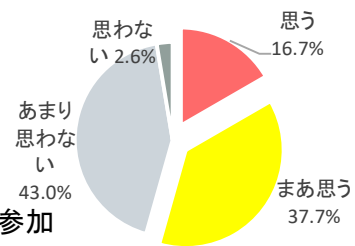
回答の理由(主なもの)

- ・重要伝統的建造物群保存地区への選定・登録文化財の増加、道路整備などにより、町並み整備が進み、来訪者に喜ばれている。
- ・少子高齢化等による歴史的建造物の滅失が進行しており、特に個人所有の財産の保全には課題がある。
- ・住民のまちづくりへの理解の促進、歴史的資源の活用や集客対策が不十分である。

質問2：居住する地域の伝統的な祭礼・活動は良好に継承されていると思うか。

結果：

思う	まあ思う	あまり思わない	思わない
19	43	49	3
16.7%	37.7%	43.0%	2.6%



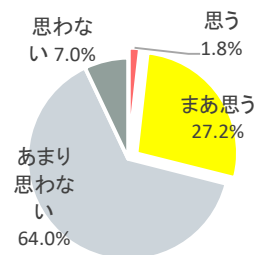
回答の理由(主なもの)

- ・住民の努力によって今のところは継承されているが、若手の参加は少なく後継者不足。
- ・役員の負担が大きい。
- ・市が率先して、住民に歴史まちづくりへの理解を促進し、気運を作り出す必要がある。

質問3：市民のまちづくりへの関心は高まっていると思うか。

結果：

思う	まあ思う	あまり思わない	思わない
2	31	73	8
1.8%	27.2%	64.0%	7.0%



回答の理由(主なもの)

- ・行政の諸事業により町並み整備が進み、来訪者など外部の評価が高まることで、住民の関心が高まっている。
- ・町民あげて祭事を大切にしている。
- ・まちづくりに関する情報が市民全体には行き届いておらず、当該計画への理解は高いとは言えない。
- ・歴史的な町並みを観光資源として外部に情報発信する姿勢に乏しい。

質問4：自由記載(主なもの)

- ・市と地域住民の、しっかりとした体制づくりが必要。
- ・若年層に向けて積極的に情報発信をして、歴史まちづくりへの理解を促すことが必要。
- ・ハード事業に頼らず、市民が自主的に活動する気運を引き出すよう、まちづくりの原点に立ち返ることが必要。

❖ 以上を踏まえ、歴史まちづくりの取り組みや効果について積極的に発信することや、住民との勉強会などを通して歴史まちづくりに係る理解を深め、協働体制の強化するとともに、歴史的まちなみの保全や活用、伝統的祭礼の継承を推進する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
<p>② 協議会におけるコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の進展が確認でき、うれしく思う。 ・様式3「波及効果別シート」に、「長野県内の歴史的まちづくりネットワークの構築」について記載されている。これは、令和元年9月に発足した、長野県内のまちづくり団体22団体で構成するネットワーク組織である。 令和2年10月には、小諸市において、当該ネットワークのセミナーを開催する。このセミナーに合わせて、全国的なまちづくり団体の関東甲信越ブロックのセミナーも同時開催する予定となっている。まちづくりに関わる多くの人と情報交換ができ、まちづくりに対する意欲が湧いてくるような、市民参加型の大会となると思う。 本市内からは、現在のところ1団体のみが加盟している。他の団体にもぜひ参加していただきたい。 ❖ 以上を踏まえ、計画の終期に向けて、歴史まちづくりの進捗管理を徹底するとともに、地元やまちづくり団体の、まちづくりに対する意識を高めるため、相互の情報共有を促進する。 			

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R元年
<p>① 全体の課題</p> <p>各評価シートから、以下の課題を抽出した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史的建造物やまちなみの保全及び伝統的祭礼の継承に関し、保護や支援の対象となっていないものも多く、保護や支援の対象となっている地域・対象であっても、滅失・衰退が進行している。 2 歴史まちづくりへの市民の理解を得るための情報発信や、歴史的建造物や伝統的祭礼を活用した観光振興が不十分である。 3 歴史的建造物や祭礼の調査研究について、文化財等未指定のものを含めた総合的な把握ができていない。 			
<p>② 今後の対応</p> <p>歴史的風致維持向上協議会の意見を踏まえて、歴史的風致維持向上計画に掲げた各種事業を着実に進展させる。 「全体の課題」で抽出した3つの課題については、下記により対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史的建造物やまちなみの保全及び伝統的祭礼の継承への対応 <ul style="list-style-type: none"> ❖ 歴史的建造物や伝統的祭礼の継承のために導入している保全制度や支援制度を有効に運用する。 ❖ 地域に合ったまちづくり勉強会を実施し、行政と住民が密に情報を共有して、現在行われている保全制度や支援制度の手法に検討を加えるほか、新たな制度の導入を検討する。 2 歴史的建造物や伝統的祭礼を活用した観光振興や情報発信への対応 <ul style="list-style-type: none"> ❖ 観光振興や歴史まちづくりへの理解を促すため、ホームページやツイッター等SNSを活用して、最新の情報を積極的に外部に提供するほか、その他の広報媒体の利用も検討し、実施する。 ❖ 庁内各課の、歴史まちづくりに関連する事業の相乗効果を高めるため、観光部局などとの情報共有を密にし、歴史的資源を活かした着地型観光の促進などについて検討する。 3 歴史的建造物や伝統的祭礼の調査研究への対応 <ul style="list-style-type: none"> ❖ 市民との協働、継続的・計画的な調査体制を確立し、文化財保存活用地域計画の策定等を目的とした調査研究を実施する。 			